

ご	参	考					
	2016	年	度	活	動	一	覧

分科会

- ・ システム技術分科会
- ・ 教育環境分科会
- ・ 科学技術計算分科会
- ・ 合同分科会

WG

タスクフォース

委員会

分科会活動

システム技術分科会

2016 年度	ヒヤットした、その後に… - 本当のセキュリティインシデント対応を語り合おう！
	<p>▶ 2017 年 1 月 24 日(火) 13:30-17:20 / 富士通（株）本社</p>
	<p>重大インシデント発生時における IT ガバナンス強化を考慮した対応 根本 直樹（内閣官房 政府 CIO 補佐官）</p>
	<p>個人情報漏洩疑いインシデントが残したもの 南 弘征（北海道大学）</p>
	<p>「あなたのヒヤリ、教えて下さい」 全体コーディネータ 飯島 邦子（（株）ジョイワークス）</p>

ICT フォーラム 2016	セキュリティ観点からのネットワーク管理と運用 ～そのグローバル IP アドレス、誰が、 何に使っているか分っていますか？
	<p>▶ 2016 年 8 月 23 日(火) 13:30-17:20 / 富士通（株）本社</p>
	<p>「つながった機器」と「インシデント」 掲載 鹿野 恵祐（一般社団法人 JPCERT コーディネーションセンター）</p>
	<p>京都大学のネットワークとその管理について 斉藤 康己（京都大学）</p>
	<p>地方の中小規模大学である鳥取大学における セキュリティへの取り組みと課題について 掲載 大森 幹之（鳥取大学）</p>
	<p>Internet of "Insecure" Things との戦いに備えて 森川 郁也（株式会社 富士通研究所）</p>

教育環境分科会

2016 年度	学習者主体の学びとその支援 - 学習者主体の学びの場の提供 -		
	<p>▶ 2016 年 10 月 29 日(土) 9:30-12:30 / ANA クラウンプラザ神戸</p>		
	<table border="1"> <tr> <td> 大阪大学アクティブラーニング教室（HALC）の紹介と活用事例 岩居 弘樹（大阪大学） </td> <td style="text-align: right;">掲載</td> </tr> </table>	大阪大学アクティブラーニング教室（HALC）の紹介と活用事例 岩居 弘樹（大阪大学）	掲載
大阪大学アクティブラーニング教室（HALC）の紹介と活用事例 岩居 弘樹（大阪大学）	掲載		
	<table border="1"> <tr> <td> プレイフルラーニングで世界を ROCK しよう！ - ステージというパワフルな場が学びを鍛える - 上田 信行（同志社女子大学） </td> </tr> </table>	プレイフルラーニングで世界を ROCK しよう！ - ステージというパワフルな場が学びを鍛える - 上田 信行（同志社女子大学）	
プレイフルラーニングで世界を ROCK しよう！ - ステージというパワフルな場が学びを鍛える - 上田 信行（同志社女子大学）			

教育環境 フォーラム 2016	学習者主体の学びとその支援 - 学びの環境づくりとしての PC 必携化 -		
	<p>▶ 2016 年 9 月 6 日(火) 13:30-17:30 / 富士通（株）本社</p>		
	<table border="1"> <tr> <td> 教員養成系大学における COPE 実践 西端 律子（畿央大学） </td> </tr> </table>	教員養成系大学における COPE 実践 西端 律子（畿央大学）	
教員養成系大学における COPE 実践 西端 律子（畿央大学）			
	<table border="1"> <tr> <td> 個人必携パソコンによる情報環境 - 公立鳥取環境大学の事例 - 齊藤 明紀（公立鳥取環境大学） </td> <td style="text-align: right;">掲載</td> </tr> </table>	個人必携パソコンによる情報環境 - 公立鳥取環境大学の事例 - 齊藤 明紀（公立鳥取環境大学）	掲載
個人必携パソコンによる情報環境 - 公立鳥取環境大学の事例 - 齊藤 明紀（公立鳥取環境大学）	掲載		
	<table border="1"> <tr> <td> [パネルディスカッション&ワークショップ] 学びのためのパソコンを創ろう コーディネーター：喜多 一（京都大学） パネリスト：西端 律子（畿央大学） 齊藤 明紀（公立鳥取環境大学） 入江 守（京都大学 生活協同組合） 小中陽介（富士通クライアントコンピューティング（株）） </td> </tr> </table>	[パネルディスカッション&ワークショップ] 学びのためのパソコンを創ろう コーディネーター：喜多 一（京都大学） パネリスト：西端 律子（畿央大学） 齊藤 明紀（公立鳥取環境大学） 入江 守（京都大学 生活協同組合） 小中陽介（富士通クライアントコンピューティング（株））	
[パネルディスカッション&ワークショップ] 学びのためのパソコンを創ろう コーディネーター：喜多 一（京都大学） パネリスト：西端 律子（畿央大学） 齊藤 明紀（公立鳥取環境大学） 入江 守（京都大学 生活協同組合） 小中陽介（富士通クライアントコンピューティング（株））			

掲載は本冊子に原稿が掲載されています

科学技術計算分科会

2016 年度	進展する計算科学と未来像
▶ 2016 年 10 月 27 日(木) 13:30-17:35 / ANA クラウンプラザ神戸	
スーパーコンピューターを用いた太陽のシミュレーション 掲載 堀田 英之 (千葉大学)	
癌の免疫回避の新しいメカニズムについて 小川 誠司 (京都大学)	
マルチコアからメニーコアへ、我々は使いこなせているか？ - ポストペタアプリ性能 WG 報告 - 高木 亮治 (宇宙航空研究開発機構)	
富士通の性能解析ツールのご紹介 志田 直之 (富士通(株))	
懇談会 ポストムーアに向けた計算機科学・計算科学の新展開 モデレータ：中島 研吾 (東京大学) パネリスト：井上 弘士 (九州大学) 片桐 孝洋 (名古屋大学) 松岡 聡 (東京工業大学) 遠隔参加を予定 丸山 直也 (理化学研究所)	

掲載は本冊子に原稿が掲載されています

科学技術計算分科会

HPC フォーラム 2016

ポスト「京」の挑戦 ～サイエンスの未来～

▶ 2016 年 8 月 26 日(金) 10:30-17:20 / 富士通(株)本社

深層学習とコンピュータアーキテクチャ

丸山 宏 ((株)Preferred Networks)

そのシミュレーション結果、「正しく」「楽しく」可視化しませんか。

瀬尾 拓史 ((株)サイアメント)

パネルディスカッション

掲載

ポスト「京」重点 9 分野がめざすもの

コーディネータ：庄司 文由 (理化学研究所)

パネリスト：

課題 1: 生体分子システムの機能制御による革新的創薬基盤の構築

奥野 恭史 (京都大学)

課題 2: 個別化・予防医療を支援する統合計算生命科学

久田 俊明 ((株)UT-Heart 研究所)

課題 3: 地震・津波による複合災害の統合的予測システムの構築

堀 高峰 (海洋研究開発機構)

課題 4: 観測ビッグデータを活用した気象と地球環境の予測の高度化

高橋 桂子 (海洋研究開発機構)

課題 5: エネルギーの高効率な創出、変換・貯蔵、利用の新規基盤技術の開発

岡崎 進 (名古屋大学)

課題 6: 革新的クリーンエネルギーシステムの実用化

飯田 明由 (豊橋技術科学大学)

課題 7: 次世代の産業を支える新機能デバイス・高性能材料の創成

常行 真司 (東京大学)

課題 8: 近未来型ものづくりを先導する革新的設計・製造プロセスの開発

加藤 千幸 (東京大学)

課題 9: 宇宙の基本法則と進化の解明

青木 慎也 (京都大学)

掲載は本冊子に原稿が掲載されています

合同分科会

<p>2016 年度 会合</p>	<p>コンピュータは人間を超えられるか？</p>
<p>▶ 2016 年 10 月 28 日(金) 9:00-17:40 / ANA クラウンプラザ神戸</p>	
<p>特別講演 すべての人に安全で自由な移動を ～トヨタの自動運転技術への取り組み～ 鯉淵 健 (トヨタ自動車(株))</p>	
<p>展示紹介 齊藤 哲 (富士通(株))</p>	
<p>特別講演 人工知能はどこまで人間にせまれるか～心理学と生物学の視点から 石川 幹人 (明治大学)</p>	
<p>特別講演 掲載 迫り来るシンギュラリティ 松田 卓也 (神戸大学)</p>	
<p>特別講演 富士通の人工知能 Zinrai の概要と適用事例 土屋 哲 ((株)富士通研究所)</p>	
<p>パネルディスカッション 掲載 AI 時代の文理融合:人文・社会科学にコンピュータ革命がもたらすもの コーディネータ: 出口 光一郎 (東北大学) パネリスト: AI エージェントベース・シミュレーション - 文理融合の戦略 今田 高俊 (東京工業大学)) 他者 としての AI、 私 としての AI - AI と人間は共進化するか 遠藤 薫 (学習院大学) AI と IoT などの新しい技術によって構築される新しい 社会的現実をどう読み解きどうデザインするか 出口 弘 (東京工業大学) コンピュータは人文科学にどう貢献できるか？ 前野 隆司 (慶應義塾大学)</p>	

掲載は本冊子に原稿が掲載されています